

LITTLE BIG

第77号 2024.7

発行：福島県立図書館 こどものへや
〒960-8003 福島市森合字西養山1番地
TEL 024-535-3218
<https://www.library.fcs.ed.jp/>

【ごあいさつ】—『LITTLE BIG 準備号』より—

この『LITTLE BIG』は、「子供だけど大人」「大人だけど子ども」という人たちへのメッセージです。図書館の司書たちが読んだ本の中から、気になる文章をピックアップしてお知らせします。みなさん的心のアンテナにひっかかったら、ぜひその文章が載っている本を読んでみてください。



【Pieces -かけらたち-】本の中の言葉

当館の職員が読んだ本の中から、素敵な言葉、心に残った言葉を集めました。みなさんの心にも届いたら、ぜひ手にとって読んでみてください。

◆夏は希望のつまつた本だ。だからこそ、ぼくは夏が大好きで大嫌いだった。夏にはなにかを信じたくなるから。

『アリとダンテ、宇宙の秘密を発見する』(ベンジャミン・アリーレ・サエンス／著
川副智子／訳 小学館 2023.8 p270)

◆「どこが不足なんだ？ 自分の目で見たものでなければ、自分のものにならないと、本気で思うのか？」

『野川』(長野まゆみ／著 河出書房新社 2010.7 p26)

◆みんな、なぜひとりじゃないんだろう。あそこの小学生たちも、あのカップルも、ほらあの親子連れも……ずるいよ。ずるすぎるよ。どうしてみんな誰かといいるのよ。

『翼をもたない私たちは、それでも空を飛びたかった。』(山下君子[ほか]／著
orie／絵 Gakken 2023.8 p52-53)

◆「こないだSNSで見かけた言葉なんだけどさ。人って、一か所だけに執着してたら、依存なんだって。わりとよくないことなんだって」

良子さんがそんなことをいう。ふうん、とわたしはつれない声を出す。

「でもね。いっぱい依存先もって、あちこちに相談できたら、それは自立っていうんだって」

良子さんはわたしの手をきゅっと握りしめた。

『杉森くんを殺すには』(長谷川まりる／作 くもん出版 2023.9 p193)

ルールを疑う？

福島県の高校で、校則の見直しの動きが活発になっていますね。中高生のみなさんは、ルールが窮屈だと思ったことはありますか？

●『ルール！』

(工藤 純子／著 講談社 2023.10)【913/クジ】
校則に違反したせいで、職員室で反省文を音読させられそうになった中学生の知里。決まりだからって、そこまでしなくちゃいけないの？知里は仲間と一緒に、「ブラック校則」を見直そうと活動を始めます。

●『ルールはそもそもなんのためにあるのか』

(住吉 雅美／著 筑摩書房 2023.11)【321/ス】
身の回りにあるルール。絶対に守るべきなものがある一方で、なぜ守るのか分からないのに守ってしまうものや、変えてほしいという声があるのに変わらないものもあります。

ルールはどういう目的で存在するのか？法哲学の先生と一緒に考える新書です。

●『としょかんライオン』

(ミシェル・ヌードセン／さく
ケビン・ホークス／え 福本
友美子／やく 岩崎書店
2007.4)【P/ホケ】

「図書館では静かに」。これはさほどへんな決まりではありませんね。さてここに、図書館が好きなライオンがいます。いつも静かにしていましたが、ある時、事情があって吠えてしまって……。ここではルールが柔軟に適用されます。

＼YAの本棚から／

中高生のみなさん（YA）のためのコーナーからおすすめの本を紹介します。

『夜空にひらく』

いとう みく／著 アリス館 2023.8【913/イミ】



17歳の鳴海円人は、バイト先のコンビニで、バイト仲間の男子大学生Aを殴り、傷害罪で家庭裁判所に送られてしまします。そこで試験観察処分※1になりますが、幼いころから祖母と二人暮らしで身寄りのなかった円人は、補導委託という形で、煙火店を営む深見の家でしばらく過ごすことになりました。

家主である深見と母親のまち子、下宿をしている花火師の白置健と泰の双子の兄弟との共同生活の中で、円人はひとつ屋根の下で家族と過ごす時間の心地よさや、あたたかさを経験していきます。

※1 一定期間、自宅での生活を観察したのち、改めて処分を決めるもの

『アフェイリア国とメイドと最高のウソ』

ジェラルディン・マコックラン／著
大谷 真弓／訳 小学館 2024.1【933/マジ】



二ヶ月も雨が続くアフェイリア国で、女性最高指導者（スプリーマ）がまさかの逃亡。トップの不在を隠すため、15歳のメイドのグローリアが身代わりに仕立て上げられ……。

コメディのように始まりますが、この物語は実際の災害をモデルにしていて、本編ではグローリアに試練と苦難が降りかかります。特に厄介なのは、新聞がウソを書いて、国民が間違った対象を憎悪してしまったこと（フェイクニュースですね）。事態はただのメイドの手には余りますが、今だけはそのメイドが最高指導者です。

グローリアは最後まで逃げずに立ち向かいいますので、ぜひ最後まで読んでみてください。

『ようこそ！富士山測候所へ』

日本でのてっぺんで科学の最前線に挑む

長谷川 敦／著 旬報社 2023.10【451/ハ】



100年以上前の日本では正確な天気予報ができず、大きな台風で命を落とす人がたくさんいました。前半は、富士山頂に測候所を作り気象観測ができれば精度の高い予報ができると考えた人々が、過酷な環境下で測候所開設を目指し、成し遂げた物語です。

後半では、技術の進歩により役目を終え無人化された測候所を新たな研究の場として選ぶ科学者たちの物語です。大気汚染物質の観測、空気中のマイクロプラスチックの観測等、地球や人体への影響を調査する基礎データ収集の拠点になっています。

登る山、愛する山だけでなく研究拠点の山としても、富士山は私たちを魅了しています。

『在来植物の多様性がカギになる』

日本らしい自然を守りたい

根本 正之／著 岩波書店 2023.6【471/ネ】



普段歩く道沿いに生えている草の名前をどのくらい言えるでしょうか。芽を出し、葉を広げ、花をつけ、種を飛ばし、時には刈り取られ……季節ごとに様々な姿をみせる植物ですが、その中には特定外来生物や総合対策外来種に指定された生態系等に被害を及ぼすまたは及ぼす恐れがある外来種があります。黄色い花のオオキンケイギク（特定外来生物）が風になびく姿を皆さんも目にしているのではないでしょうか。

この本では外来種の現状から、在来植物群落の復元方法までをまとめています。普段目にする草が在来種なのか外来種なのか、そんなところから自然観察をはじめてみませんか。